



1 松尾山観月祭 2 5 6 げんきの杜での練習風景 3 成果発表会 4 大晦日に中津城で 7 大富神社夏越祭り 8 中津たにし祭り
9 大平保育所夏祭り

Close-up

上毛龍神太鼓

和太鼓の継承活動を通して
地域活性化を図る



上毛龍神太鼓は、地域に伝わる和太鼓を若い世代に継承し、町を活性化させたいという思いから結成されたグループで、平成26年に地域づくり活動団体として認定されました。

リズムを合わせると音が何重にも膨らんでいく

「どくん」と腹に響く太鼓の音。樂器の中にはなかなか音がないものもありますが、和太鼓は叩くだけで誰でも音が出ます。張つてある皮を叩いても、強弱はあるが同じ音しか出ないので。縁を叩く音を入れても、音の種類は二つだけです。力強く、やさしく音の強弱やリズムで音楽が生まれる樂器なのです。和太鼓は、基本的に集団で叩きますので、大きさが異なる太鼓のリズムを合わせることが、より必要な要になってしまいます。それだから奏でられる音が合わさったときは圧巻です。

代表の中さんはこう振り返ります。「独身時代に行橋の太鼓グループで和太鼓を叩いていたのですが、結婚を機にやめたものの和太鼓の楽しさが忘れられず、上毛町で桜太鼓というグループを立ち上げ活動していましたが、肝心の和太鼓が壊れてしまい活動中止になりました。2年前上毛龍神太鼓の活動を知り参加しました。定期的に和樂器タートルの太鼓教室の先生に指導していただき新しい刺激を受けていました。

けられます。「和太鼓は樂譜を見ながら演奏しないので全て自分の頭と体に叩き込むしかありません。新しい曲を覚えるときは、メンバー一同悪戦苦闘しますが、皆の音が揃い完成したときには言い表せない達成感があり、合わせて叩くことで、そこには人の繋がりを感じられ感動します。それが集団で叩くことの魅力だと思います」と話していました。

子どもたちは体力もあり、覚えるのが早いそうです。久恒摩優さん（小学3年）は「楽しそうだと思って始めたけど、時々やめたくなって休んだこともあった。でも太鼓の楽しきが好きでがんばっています。曲を覚えるのは大変ですが練習して小学校で演奏したり、英語を勉強して将来はニューヨークで演奏してみたいです」

三吉陸空斗君（小学3年）、他力蓮武君（小学2年）は「交差打や左手で叩くのが難しいので早くできるように練習しています。これからもいろんな所に行つて演奏したいです」など、それぞれが目標を持つて練習に励んでいます。

現在、演奏のレパートリーは4曲です。「輪太鼓」は一番最初に習う曲で、大人と子どもが一緒に叩きます。一人ひとりの輪をつなげていこうという想いを込めて演奏します。「龍神は龍の力強さ、凛とした格好よさ、龍のうねりが感じられる、子どもだけで演奏するゆつたりとした時間、上毛の人々の人柄や笑顔をイメージした曲です。地域づくり広報誌のタイトルにもなっている「いぶき」という曲もあります。上毛龍神太鼓が町の新しい芽となり、色々な花（笑顔）を咲かせるようにといふ願いを込めてつけたそうです。そして今、来春のお披露目に向けて「疾風」という曲を練習しています。

自然や心を和太鼓の響きに変えて、力強い鼓動を伝える

仕事や部活動などの環境の変化で、練習毎回参加できたり退会したりなど、活動を継続するのはとても大変で、本番も人数が揃わぬ、出演依頼を断つてしまう時もあります。今後について「もっと地域内外の皆さんとの交流を持ち、文化講座などにも積極的に参加し、和太鼓の楽しさを伝えながらメンバーを募集していく」とあります。挑戦し、上毛龍神太鼓を通して上毛町を有名な町にしたいという思いで一杯です。毎年、大晦日には中津城で演奏しています。観客の皆さんから「あまり良い年ではなく落ち込んだけど、なんだか元気が出てきました。来年はいいことがあります」「寒い中、皆さんの演奏がとても心に響いて温かくなりました」など声をかけていただき、私たちの方々が皆さんからパワーをもらっています。これからも上毛龍神太鼓は和太鼓の継承に併せて、和太鼓の音がたくさん皆さんに届き、笑顔が広がるように活動を続けていきますので今後ともよろしくお願ひします」と話していました。

和太鼓を叩いてみませんか

毎週火曜日19時から21時30分までげんきの杜で練習をしていますので見学に来てください。メンバー一同お待ちしています。



また、お父さんと一緒に参加している西野美琴さん（小学6年）は「情報誌スマイルで上毛龍神太鼓の活動を知った父が参加したのをきっかけに私も叩いてみたくて始めました。和太鼓はリズムを覚えることがとても大変ですが、いろいろな樂器を演奏することができます大人になった時にきっと役に立つと思います」

練習を始めて5年の小野颯万君（小学3年）は「自分から習いたいと思い参加しました。新しい曲を覚えるのが難しいけど楽しいです」など、和太鼓を通して自分も成長したいと考えています。

上毛龍神太鼓が新しい「いぶき」となるように

上毛龍神太鼓のメンバーは小学生から大人まで14名で活動しています。練習方法などメンバーの皆さんに聞いてみました。和太鼓の演奏は正しい姿勢を維持しながら、下半身から下半身まですべての筋肉を使うので、一曲が終わるころには相当の運動をこなしたことになります。バチの持ち方や打ち方から始まり、腰に蓄えられたエネルギーが腕へと伝わり、腰から落とす」とつま先の力が腰に伝わり、リズムを合わせながら練習を重ねていくそうです。腕の振りは「ひじから振り上げ、ひじから落とす」とことつま先の力が腰に伝わり、バチ先に集められたエネルギーが太鼓へ注ぎ込まれ、音という波動となつて聴衆に届いています。